

平成 28 年 12 月 15 日

意見発表

鈴木委員

公明党を代表して、まず一つは補正予算の農業人材力強化支援事業費で、実際にプログラムをつくっていただくのは結構ですが、有識者などによる検討会を実施しと書いてある。いつも神奈川県の見聞会を見てみると、基本的に有識者という学者さんがやたら入っていて、私がすごく心配しているのは、農業を新しく担うとか、また女性という観点からと言うと、例えばNPOとかで画期的な、私がこの前ガイアの夜明けでの話をしたけれども、現実には女性等々でもある意味簡単にといい方はいけないが、こういうふうには農業に参加できるんだというような夢を与えられるような人をそろそろ入れないと、何々大学の教授さんとか何とかばかりでは私はいけません。そこをちょっと心配していて、これを要望しておきたい。

二つ目はウメ輪紋ウイルスの件で、質問をさせていただきましたが、アブラムシが運んでくるということで、これは果たして鶴見区、港北区だけの問題なのか。本当に深く考えてやらないと、今の鳥インフルエンザと同様に、間違いなく運び手は虫で移動しているわけだから、これに対する徹底を県内でしっかりとすべきである。同時に、ウメの木を切るのが嫌だとかという人いらっしやるそうだが、ある程度強い体制で臨まなければ。他の所の木にそのままウイルスが移った場合どうなるのかというようなことも含めた形で、もう一度しっかりと対応をお願いしたいと思います。

三つ目は、質疑を聞いていて心配したことはクマの件で、GPSをつけて放した、それではそのGPSをどのような形で活用するのか。例えば群れをそこから確認するとか、科学的な見地のところに持って行く。要するに県としてのリーダーシップがないと、一体何をしてくれているんだというふうになります。ヒグマにGPSをつけて放しました、だから群れをちゃんと捕まえましたとか、今後は捕まえた動物等々についてはGPSをつけてしっかりと群れを追いますとかという、そういう建設的なものを是非出していただきたいと思いました。

四つ目は、県の災害廃棄物処理計画素案を頂きました。質疑でもお話しさせていただきましたが、横浜市、川崎市という政令都市を抱えて、瓦れき問題を本当にどうするのかを真剣に考えていかないといけない。何かがありました、それに対しその場で対応というわけにはいかないでしょう。資源循環推進課長のお立場もつらいと思いますが、これはやはりリーダーシップを持ってやっていただくことを要望しておきたいと思います。

五つ目は、フラワーセンター大船植物園ですけれども、これもお話しさせていただきましたが、指定管理の選定の際に、指定管理者が持ってくる独自のクリエイティブなものというのをしっかりと採点の中に入れていただきたい。私は、神奈川県もそろそろ皆さん方の考えた案で何かをやるという時代から、外のマーケティングをしっかりと入れた形でやる時代をつくるべきだと本当に思ってい

るのです。何かやろうと皆さん方が考えたものでやるというのだけれども、それではこれは本当に皆さん方がマーケティングのいろんな要素というのを吸収した形でやっていらっしゃるのかと。私はこれは、環境農政局だけじゃなくていろんな施設に対して第三者のマーケティングを入れていくべきだというふうにいずれ提唱したいと思っておりますが、その観点からもしっかりとしたクリエイティブな形での提案というものにもう一度耳を貸していただきたいのと同時に、これもお話をさせていただきましたが、園に無料で入っていらっしゃる学生さんの方々に対するしっかりとした教育というテーマでの提案というようなものもしっかり入れていただければ有り難いです。いずれこの人たちが大人になった時に、やはりフラワーセンター大船植物園を愛してもらえる、そういう基礎づくりというのはやはり大事なことではないかと思っておりますので、よろしくお願い申し上げたいと思います。

次はかながわ農業活性化指針。これについては私も大変に厳しい言い方しましたがけれども、全文を見ていて起承転結が分からない。二つ目には、実際に神奈川の農業の現状として経営体の数が減ってきている、農業人口に占める生産年齢の人口が減っているというけれども、それはなぜそれが起こり、そして今はどうなって、それをどうしていきたいのかという観点からの分析というのが書かれていないのはなぜか。あわせて、県として取り組んでいる三つの視点というものと整合性というのはどうされるのかを素案の中にしっかりお願いしたい。同時に、これもお話しさせていただきましたが、女性の就業者数を増やすといっても、パートなのか正社員なのかもしっかり書いていただくのと同時に、マーケットインの話をしていただいて、コーディネーターの数などが本当は重要なのに、そこが書かれていないというのはいかがなものかという思いがいたしましたので、よろしくお願い申し上げたいと思います。

そして、県農産物や畜産物の消費拡大についてお話ししたけれども、かながわ鶏をつくっていただきありがとうございます。だけれども、これが本当に神奈川県民の口にちゃんとのぼって食べられてこそ本当の施策だと私は思うのです。ところが、何々が少ないのだといった理由がいっぱいで難しいとしても、それは実際に税金を使って作られたものであるならば、最後の消費までしっかり持って行っていただきたい。もう少し時間があれば、今まで県の畜産物などの中でかながわブランドとして出てきたものが、どれぐらい県の中に広まっているのかとお聞きしたかった。私はあまり見たことがない。先ほど確認したらかながわブランドというロゴがあるんだと。これについても本当に県民の中で理解している人がどれだけいるだろうかというような思いもいたしました。どうか口に入ってこそ本当の開発であり製品であるというような観点を忘れないようにお願いしたい。

もう一つ、農政部長からは前向きな答弁を頂きましたけれども、願わくば県庁舎で神奈川県民のいろいろな生産物のマーケットを開いて、県民に広めていくべきであるのと同時に、川崎市と横浜市をある意味でマーケットとした形で、県庁舎を使っていただければと思いました。これについては前向きな御答弁を頂いたので、より具体的なものを平成30年ぐらいを目指して是非ともよろしくお願いを申し上げたいと思います。

以上で、私は諸議案に賛成をいたします。